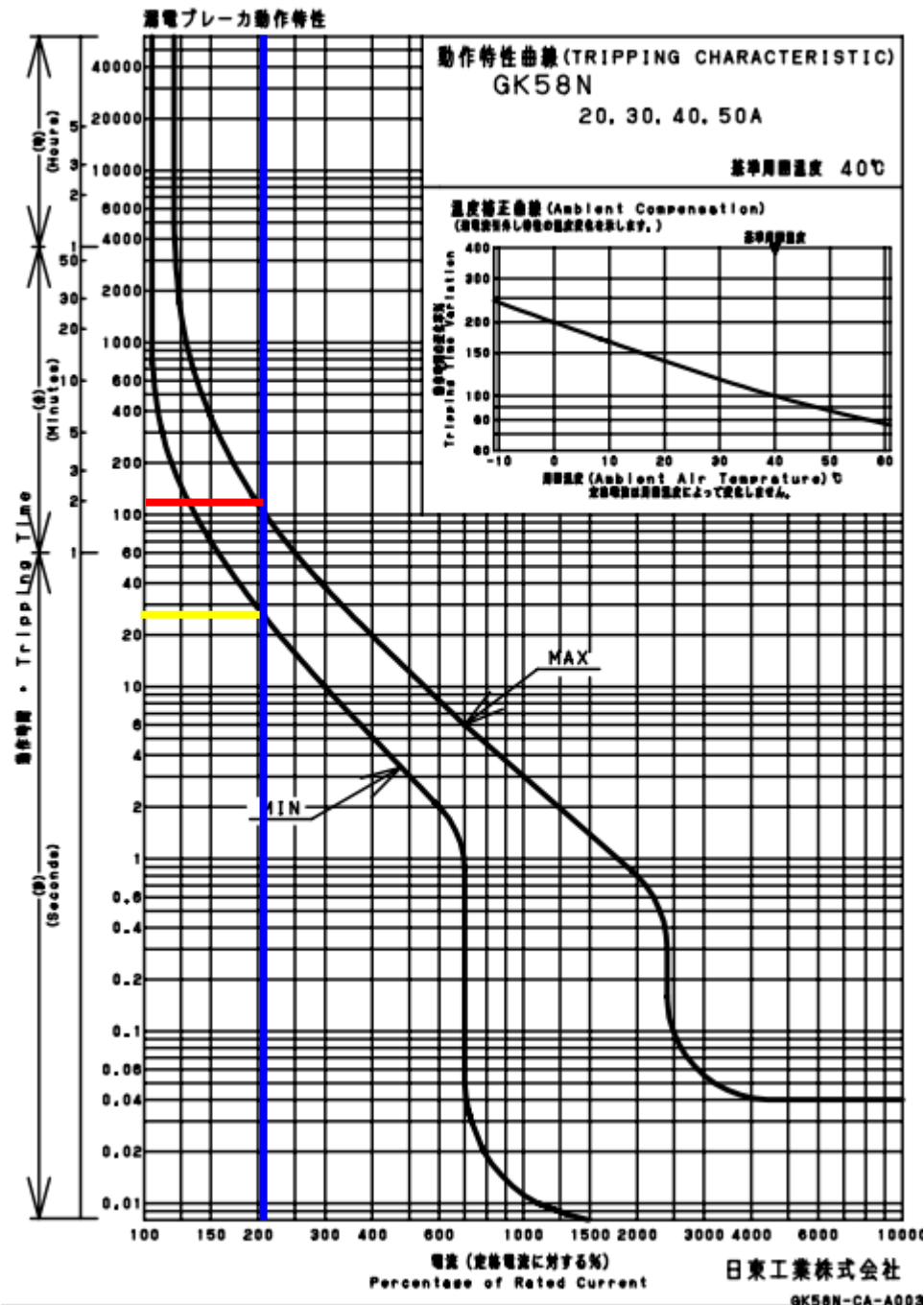




例：定格電流50Aに対して100Aが流れた場合について

これは、定格に対して200%となり青の軸を縦に引くことで動作時間を調べられます。
この場合、曲線と交差しているところから左に線を引きます。動作時間の最小が黄色の線の約28秒、最大が赤色の線120秒となります。

■ 過電流引外し特性

時延引外し特性

動作特性曲線は電流の大きさと、動作時間の関係を示しています。**図1**のように小さな過電流範囲では電流の大きさに反比例する特性を有しています。JIS規格では基準周囲温度（40℃）において定格電流の100%では動作せず、125%、200%の電流では**表1**に示す動作時間内で動作するよう定められています。

瞬時引外し特性

短絡電流などの比較的過大な過電流により、瞬時に回路を遮断する特性です。
上位のブレーカよりも小さな電流で動作し、下位のブレーカよりも大きな電流で動作することが要求されます。

図1 動作特性曲線

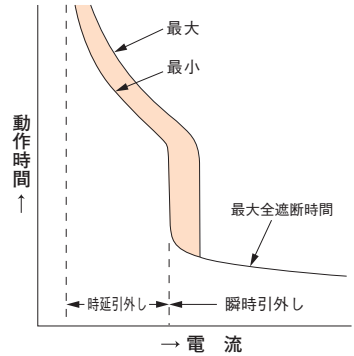


表1 時延引外し特性（JIS C 8201-2-1）

定格電流 (A)	動作時間(分)	
	125%電流	200%電流
30以下	60以下	2以下
31～50	60 //	4 //
51～100	120 //	6 //
101～225	120 //	8 //
226～400	120 //	10 //
401～600	120 //	12 //
601～800	120 //	14 //
801～1000	120 //	16 //
1001～1200	120 //	18 //
1201～1600	120 //	20 //

【瞬時可調整付ブレーカ】

瞬時可調整付ブレーカは、瞬時動作の電流値を調整できます。したがって、瞬時動作の電流値を、電動機などの始動電流で動作しないように、下位ブレーカの瞬時電流値よりも大きな値で、また上位ブレーカや気中遮断器の引外し電流値よりも小さい値で設定することができます。（88頁参照）